

なら

## 植防ニュース

## 2020年度 農薬展示圃成績検討会

12月22日に奈良県農業研究開発センター交流・サロン棟にて関係者約50名を参集し、13剤・22件の試験成績が検討された（2面に概評掲載）。

始めに、水稻の殺虫・殺菌剤は3剤検討され、対照区と同等もしくはやや優れる効果を示した。Dr.オリゼリディア箱粒剤はオリゼメートと新規殺虫成分の「フルピリミン」の混合剤で、対照薬剤と比べていもち病やセジロウンカにやや優れた効果を示した。このフルピリミンはウンカ類に高い効果を示し、昨年本県で甚大な被害をもたらしたトビイロウンカに対しても効果が期待されている（3面記事参照）。

次に水稻除草剤は7剤が検討され、いずれもA評価であった。ジェイソウルジャンボ・フロアブル・1キロ粒剤及びバイスコープルナクロス1キロ粒剤には同一の新規水稻除草剤有効成分「シクロピリモレート」が含有されている。本成分は白化作用を示し、他の白化剤と高い相乗効果を示す。今回、1試験で降雨による薬剤流亡により残草があったが、その他の8試験では、ほぼ残草もなく高い効果を示した。今後の雑草対策への利用が期待される。

一般社団法人奈良県植物防疫協会

〒633-0046 桜井市池之内130-1  
奈良県農業研究開発センター内

TEL:0744(47)4861

FAX:0744(47)4862(専用)

## 目次

◎農薬展示圃成績検討会	1
◎農薬展示圃調査表 成績概評	2
◎今年度の奈良県における トビイロウンカの多発について	3
◎登録失効になった農薬	4
◎農薬の使用制限にかかる登録変更 (FAMICの失効農薬情報より)	4

最後に野菜・果樹の殺虫・殺菌剤が3剤検討された。ニマイバー水和剤はイチゴ炭疽病に対し、対照薬剤と同等の効果であった。本剤は本圃での使用も可能で、治療剤としても活用できるため、ローテーション防除の1剤として有用であると考えられる。かきのフジコナカイガラムシに対するアプロード水和剤と展着剤アピオンEの混用試験が前年に続き行われ、本年も対照区に比べてやや優れていた。ホーマイコート of 休眠期防除と同時に散布することで、生育期散布作業の省力化が期待できる。



## 2020年度 農薬展示圃調査表 成績概評

総合評価 A: 農薬の効果、薬害の面で普及上問題が無い。 A\*: 病害虫無発生につき効果の判定はできなかったが、薬害の面で普及上問題が無い。  
 B: 普及にあたって更に検討する必要がある。 - : その他(判定できない)

種類	農薬名	対象作物 (栽培形態)	対象病害虫 及び雑草	圃場場所	担当地区営農 連絡協議会等	指導機関	総合 評価	備考
菌虫	ブーンパディート箱粒剤	稲 (育苗箱)	いもち病、イネミスゾウムシ	桜井市巻野内	桜井しき	中部農林	A	
菌虫	ブーンレパード箱粒剤	稲 (育苗箱)	いもち病、紋枯病、 イネミスゾウムシ	田原本町味間	桜井しき	中部農林	A	
				吉野町山田	吉野地区	南部農林	A	いもち病、 紋枯病 未発生
菌虫	Dr.オリゼリディア箱粒剤	稲 (育苗箱)	いもち病、イネミスゾウムシ、ウカ類	桜井市大泉	桜井しき	中部農林	A	
除	サスケーラジカルジャンボ	水稻	水田一年生雑草、 マツバイ、ホタルイ、ウリカワ他	桜井市	桜井しき	中部農林	A	
				桜井市芝	桜井しき	中部農林	A	
除	ジェイソウルジャンボ	水稻	水田一年生雑草、 マツバイ、ホタルイ、ウリカワ他	奈良市	奈良地区	北部農林	A	
				葛城市	北葛地区	中部農林	A	
				山添村	天理山辺	北部農林	A	
				宇陀市	宇陀地区	東部農林	A	
				吉野町	吉野地区	南部農林	A	
除	ジェイソウルフロアブル	水稻	水田一年生雑草他	宇陀市	宇陀地区	東部農林	A	
除	ジェイソウル1キロ粒剤	水稻	水田一年生雑草他	天理市	天理山辺	北部農林	A	
				田原本町	桜井しき	中部農林	A	
除	プライオリティフロアブル	水稻	水田一年生雑草他	天理市	天理山辺	北部農林	A	
				大和郡山市	郡山生駒	北部農林	A	
除	ツイゲキ1キロ粒剤	水稻	水田一年生雑草及び 多年生広葉雑草	田原本町	桜井しき	中部農林	A	
除	バイスコープ/ ルナクロス1キロ粒剤	水稻	一年生雑草(ヒエを除く) 他	吉野郡吉野町	吉野地区	南部農林	A	
菌	ニマイバー水和剤	いちご	炭疽病	大和郡山市池内 片桐網室	郡山生駒	北部農林	A	
虫	ファインセーブフロアブル	ねぎ	アザミウマ類 ネギハモグリバエ	山添村岩屋	天理山辺	東部農林	A	
虫	アブロード水和剤	かき	カイガラムシ類幼虫	五條市車谷町	五条地区	南部農林	A	アピオン-E 混用
				五條市牧町	五条地区	南部農林	A	

## 今年度の奈良県におけるトビイロウンカの多発について

奈良県病虫害防除所 井村岳男

今年度は西日本各地でトビイロウンカによる水稲の坪枯れが多発し、奈良県では50年ぶりの大発生となった。来年度以降の改善に繋げるため、改めて今年度の発生経過を振り返り、多発の原因と改善策について考察してみたい。

トビイロウンカは熱帯～亜熱帯地域原産の長距離飛来性害虫であり、周年発生地帯であるベトナム北部で越冬した個体が3月頃に中国南部に飛来して水田で増殖した後、梅雨期に下層ジェット気流に乗って我が国に飛来する。飛来源における近年の傾向として、トビイロウンカ感受性品種の作付けが増えたことと、殺虫剤感受性低下が進んでいることによって発生密度が高くなっていると言われている。これに加えて、今年度は梅雨が長かったため、飛来源から奈良県上空に到達する風が吹いた回数が平年より多かった。これらの結果、平年であれば7月以降に僅かに誘殺されるのみの本種成虫が、今年度は6月から早い飛来が始まり、その後7月までの飛来量は記録の残る昭和初期以降で最大となった。さらに、梅雨明け後の異常高温と少雨が本種の増殖を助長し、9月初旬には第2世代成虫が急増し、中旬以降の第3世代幼虫による坪枯れ急拡大に繋がったと考えられる。

トビイロウンカは高度抵抗性害虫であ

り、既存剤の多くで感受性が低下している。しかし、これまで本種による被害が少なかった本県では、移植時の箱粒剤は他の常発害虫を対象とした薬剤が使用されてきた。その結果、ほとんどの場合で本種に効果が低下した薬剤が選択されていた。また、トビイロウンカ防除に不慣れなため、本田の防除適期を逸したり、本種が寄生する株元に薬剤がかかるような丁寧な散布がされていない状況が少なからず見受けられた。高齢化、兼業化が進む本県の水稲作では、省力的でドリフトの少ない防除体系に移行しつつあったこともこれを助長したと考えられる。

今後は、トリフルメゾピリムやフルピリミンなど、本種に効果が高い有効成分を含む箱粒剤への移行、本田の防除適期や薬剤選択について、きめ細かい情報提供が必要である。病虫害防除所では、本県のトビイロウンカ防除体系を再構築して関係機関との情報共有を進めている。また、来年度以降は6月以降のトビイロウンカ誘殺状況をHPに掲載するとともに、発生状況に応じて防除適期予測情報を発出したり、注意報の周知を徹底するために報道発表や奈良県LINEへの投稿を行う予定である。詳細については、病虫害防除所にお問い合わせ頂きたい。



3面記事関連写真 左:トビイロウンカ成虫 右:トビイロウンカによる反枯れ

登録農薬失効情報 (2020.10.1~2020.11.30) 農林水産消費安全技術センター(FAMIC)の登録農薬失効情報より抜粋

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名 (略称)	失効日 月/日/年
<b>殺虫剤</b>				
17854	ベルメトリン水和剤	ホクコーアディオフロアブル	北興化学	10/7/20
23056	ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス水和剤	ハスモンキラー	揖斐川工業	10/7/20
<b>殺虫殺菌剤</b>				
14551	MEP・カスガマイシン・フサライド粉剤	ホクコーカスラブサイドスミ粉剤3DL	北興化学	10/7/20
21273	イミダクロプリド・フィプロニル・プロベナゾール粒剤	Dr. オリゼプリンスアドマイヤー粒剤	Meiji Seika	10/30/20
21274	イミダクロプリド・フィプロニル・プロベナゾール粒剤	ホクコーDr. オリゼプリンスアドマイヤー粒剤	北興化学	10/7/20
21484	イミダクロプリド・プロベナゾール粒剤	ビルダーアドマイヤー箱粒剤	Meiji Seika	10/30/20
21485	イミダクロプリド・プロベナゾール粒剤	ホクコービルダーアドマイヤー箱粒剤	北興化学	10/7/20
22923	シラフルオフェン・カスガマイシン・トリシクラゾール粉剤	ダブルカットJ粉剤DL	北興化学	10/7/20
23088	シラフルオフェン・カスガマイシン・トリシクラゾール・バリダマイシン粉剤	ダブルカットバリダJ粉剤3DL	北興化学	10/7/20
23091	エチプロール・シラフルオフェン・カスガマイシン・トリシクラゾール・バリダマイシン粉剤	ホクセットエース粉剤DL	北興化学	10/7/20
<b>殺菌剤</b>				
19126	イミベンコナゾール・マンゼブ水和剤	マネージM水和剤	北興化学	10/7/20
19337	イミベンコナゾール・マンゼブ水和剤	明治マネージM水和剤	Meiji Seika	10/30/20
22888	カスガマイシン・トリシクラゾール・バリダマイシン粉剤	ダブルカットバリダ粉剤DL	北興化学	10/7/20
<b>除草剤</b>				
21715	オキサジクロメホン・クロメブロップ・プロモブチド・ベンスルフロメチル水和剤	ゴウワンLフロアブル	北興産業	10/7/20
21717	オキサジクロメホン・クロメブロップ・プロモブチド・ベンスルフロメチル粒剤	ゴウワン1キログラム粒剤75	北興産業	10/7/20
22246	クロメブロップ・フェントラザミド・ベンスルフロメチル粒剤	ホクコーロングキック1キログラム粒剤75	北興化学	10/7/20

農薬の使用制限にかかる登録変更(2020.10.1~12.31)

農林水産消費安全技術センター(FAMIC)農薬情報・速報及び各農薬メーカーHPより抜粋

登録番号	農薬の種類 (名称)	変更内容	申請者名 略称	登録日 月/日/年
24265	インピルフルキサム水和剤 (カナメフロアブル)	「てんさい」の削除	住友化学	11/11/20
17116	フェンプロパトリン水和剤 (ロディー水和剤)	「ぶどう」の使用時期「収穫7日前まで」が「収穫21日前まで」に変更	住友化学	11/25/20
17117	フェンプロパトリン水和剤 (ホクコーロディー水和剤)		北興化学	11/25/20
20695	シメコナゾール水和剤 (パッチコロン水和剤)	「日本芝」及び「西洋芝 (ベントグラス)」の本剤の使用回数及びシメコナゾールを含む農薬の総使用回数を「8回以内」から「4回以内」へ変更	三井化学 アグロ	12/09/20